



◆ アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。
◆



今月のテーマ

ポコロ(出産)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)



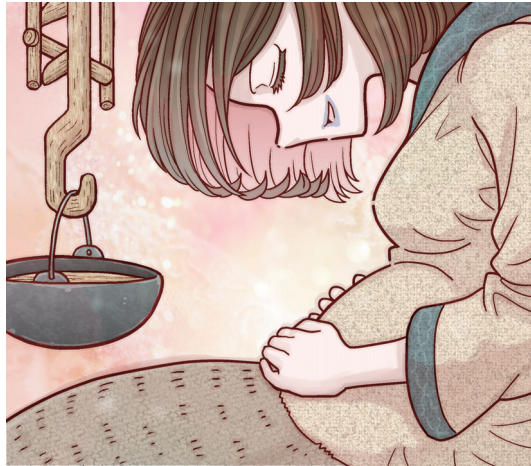
お

めでたい正月といつてめでたいお話、お産について紹介しますね。

新しい命の誕生は家族に幸せや喜びを与えてくれるものですが、いつの時代もお母さんと赤ちゃんによってお産は命がけですよ。それは「かつて」のアイヌのお産においても同じで、赤ちゃんが元気で無事に生まれるよう、日常の過ごし方から精神面においても心穏やかに出産を迎えられるよう、お母さんを支えることが大切だったといえます。

重いものは持たない、激しい労働はしないなど体に無理を掛けないように日々を過ごし、また、適度な労働はお産を軽くするので、特に脱穀などの臼杵を使う作業は積極的に行ったりしています。臼はお産や育児を加護する役割をもつカムイ(神)、他にも火やお産のカムイなど関係する神々に安産の祈願をし、お腹が目立つようになると腹帯を巻く儀礼をおこなうなど事或る毎に祈ったといえます。妊娠中に染色すると赤ちゃんにあざができる、長いものを踏くとヘソの緒が赤ちゃんの首に巻きつくなどなど、行動を制限する言い伝えもあります。

お産は自宅でおこなわれ、産床は普段の寝床とは別



イラスト/ 莊田悠人

に炉の下の方に設けられたといえます。出産は座った状態でおこなう座位分娩が一般的で、経験豊かなフッチ(お婆さん)たちが産婆の役割をしました。陣痛がはじまると、体の前後に枕のようなものを積んで寄りかかると、分娩の痛みをこらえ、家の梁から吊るしたタラ(荷縄)を握りしめ、力いっぱい息んだといえます。

産後は、体を洗うと運が流れると考えられ産湯は使わず、水風呂に含み温めて吹き掛けたり、湯に浸した布を絞り、体を丁寧に拭いたとのこと。

魂は不滅で再生するという考えがあります。人の魂もこの世に生まれ、死んであの世へ、そしてまた生まれるという具合に、この世とあの世を往復するのだといえます。赤ちゃんの誕生は、大勢いる祖先の内の誰かの魂が再生されるといって、誰を選んできたかはあの世で両家の祖先達が話し合って決めること。その選抜のポイントは生前どれだけ良い行いをしたか、その人間性が評価されるというもので、どう生きたかで未来も決まるといって…。赤ちゃんが皆から愛される訳が分かる気がします。お産のお話はまだまだ尽きないのですが、この続きはまたの機会に…。

◆



今回のテーマは「へべレイ(花矢)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。